

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	穎娃おこそ会
役職	
氏名	原本太郎
着任日	令和 3 年 4 月 1 日

活動月	令和 5 年 10 月（着任 2 年 7 ヶ月）
主な活動	1. ヨーロッパ視察

1. ヨーロッパ視察

今月は番所鼻公園で4月にオープン予定の拠点施設の建築デザインや実施するカフェ事業の事例、また、今後の公園全体の展開を見据えた水辺の観光地などの視察を兼ねて、3週間ヨーロッパに行ってきました。行程はコーヒー文化が盛んなイタリアを南から北に縦断し、その後、ベルギー・オランダを巡り、そして、フランス～スペインの海岸にまたがる食で有名なバスク地方、バルセロナ・マドリードなどを訪問しました。

まず、イタリアでのコーヒー文化は日本のそれとは違い、エスプレッソが中心で、1杯をゆっくり楽しむのではなく、1日の中で何杯も飲んで気持ちを切り替えたり、会話を楽しむことが多いようです。イタリアではドリップコーヒーやアイスコーヒーなどは飲まないそうです。その後回った国々でもそれぞれ違ったコーヒー文化を持っており、コーヒーに関する新たな知見と、カフェ事業でもコーヒーのおいしさと共に楽しさを伝えられるようにしていきたいと強く感じました。



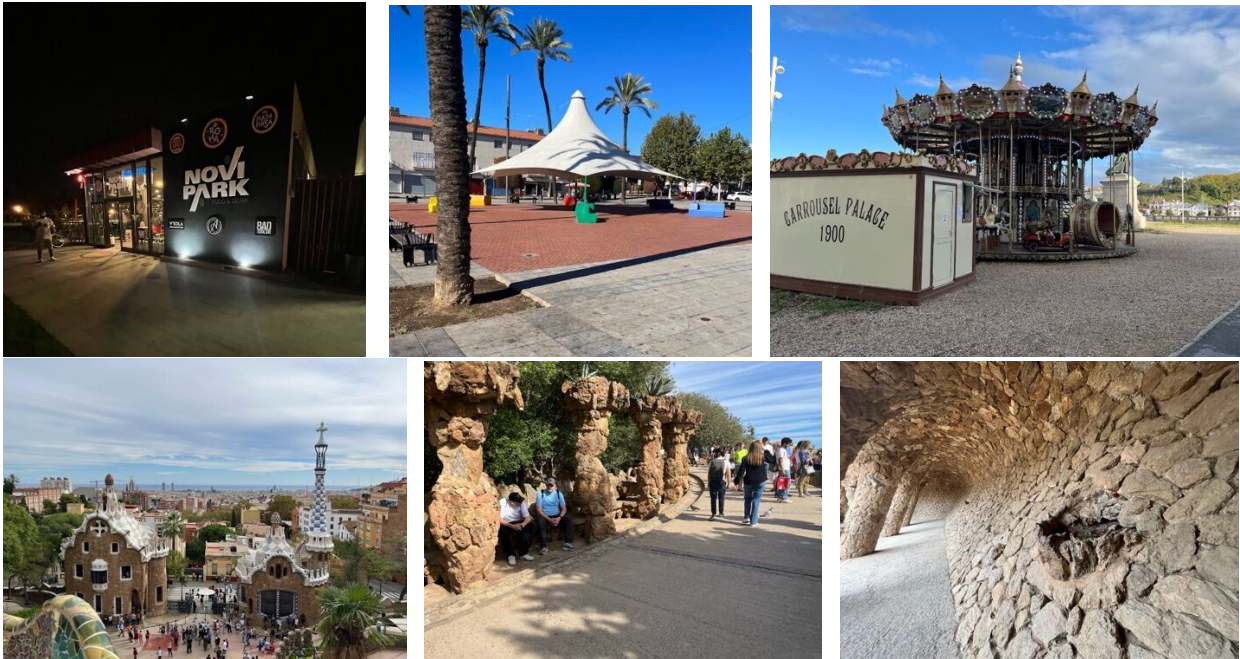
地域おこし協力隊活動報告書

また、海岸や河川の水辺の観光地では、イタリアのサレルノ・アマルフィ、ベルギーのブルージュ、オランダのアムステルダム、スペインのサンセバスティアンなどを視察しましたが、特に水辺においては、特に建築が際立つ場合が多く、周辺の自然環境と街といかに関係性をつくっていくかが重要であると感じました。アムステルダムは世界でも有名な建築家によるシンボリックな建築物が多く、街のイメージを構成する大きな要素であると感じました。また、ブルージュやサンセバスティアンなどは、水辺と街の間にカフェとオープンスペースがあり、そこでゆっくりと景色を眺めながら滞在する光景が多く見られました。



また公園の事例では、モデナの公園内のカフェ、グエル公園などが特徴的で、モデナの方は、大学と繁華街が近くにあり、もともとやや危ない地域の中に公園とカフェができたことで、多くの若者で賑わっていました。グエル公園はサグラダファミリアで有名なガウディが設計した公園で、もともとは自然や起伏が豊かな土地に広大な住宅地をつくる計画でしたが、その崇高な思想と価格で市民には届かなかったようで、今では公園として多くの観光客を集めています。公園の広場や園路、植栽などのデザインなど、歩いたり佇んだりするのが楽しくなるような構成となっており、とても参考になりました。そのほか、ヨーロッパでよく見られたのは、公園内でも商売や自由な遊びを楽しんでおり、境界という考え方が少ないように感じ、今後そのような雰囲気を作れば作れるか考えていきたいと思っています。

地域おこし協力隊活動報告書



ヨーロッパ滞在中は、各種打ち合わせを全てオンラインで行い、時差はありますが、利便性をとても感じました。また、公園チームの他のメンバーにキッチンカーイベント「絶景ごはん」の29回目を任せたりと、多くの人に支えられました、この場を借りてお礼申し上げます。

■ SNS

□ 番所鼻自然公園

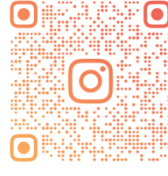


BANDOKOROBANA_PARK

FB▶「番所鼻自然公園」

インスタ▶@bandpark-bandokorobana

□ ふれあい瀬平公園

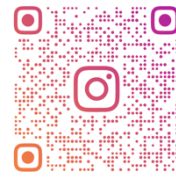


EIFUREAISEBIRAKOUEEN

FB▶「顔娃娃れあい瀬平公園」

インスタ▶@eifureaisebirakouen

□ えいのゴッソイまつり



GOSOI_EI

インスタ▶@gossol_ei

▼ 番所鼻自然公園での取り組みについて（2021 年度活動報告動画）

https://www.youtube.com/watch?v=_XwIhNZWJfw